

研修会報告

平成 26 年 2 月 7 日

文責：血液部門長 菅原 新吾

一般血液部門研修会

研修会テーマ「穿刺液検査のバトンを繋ぐ！」

開催日時 平成 27 年 2 月 7 日（土）14：00～17：00

会場 東北大学医学部臨床中講堂

- ・情報提供：「ipsogen BCR-ABL1 Mbc IS-MMR DX 試薬の概略」
シスメックス株式会社学術部
- ・講演：「部門を越えた穿刺液検査の共有化！～反応・炎症・腫瘍性を報告するために出来ること～」
講師：大崎市民病院臨床検査技術部 金沢 聖美 技師
東北大学病院検査部 菅原 新吾 技師
- ・形態カンファレンス
解説：大崎市民病院臨床検査技術部 金沢 聖美 技師
東北大学病院検査部 菅原 新吾 技師

生涯教育点数 専門 20 点

参加者 会員参加者 40 名 非会員 5 名 賛助会員 0 名 学生 0 実務委員 5 名 計 50 名

内容

テーマを「穿刺液検査のバトンを繋ぐ！」として一般・血液部門で合同研修会を行った。穿刺液検査は一般・血液・病理分野にまたがるため部門連携が重要とされる。今回の研修会は一般分野と血液分野に焦点を当て、基礎的な部分を学び、一般部門と血液部門の双方からの見方・考え方を共有することで形態観察のスキルアップと部門連携の有用性を学ぶことを目的とした。

情報提供では、メーカーより CML での遺伝子検査試薬 ipsogen BCR-ABL1 Mbc IS-MMR DX 試薬について紹介していただいた。従来から日本で行われ保険収載されている TMA 法はあるが日本独自の方法であり国際標準値への換算に問題がある。今回紹介された試薬は問題にされてきた測定間差の影響を加味し国際標準値に換算できることから今後 CML のモニタリングに有用と考えられる。今後は外注業者で使用され保険収載も予定されていることから期待される試薬である。

講演では、「部門を越えた穿刺液検査の共有化！～反応・炎症・腫瘍性を報告するために出来ること～」として穿刺液の性状、メイギムザ染色での細胞の見方と考え方、一般分野から言える部分と血液分野から言える部分、双方の役割とどのように連携していくかについて講演した。反応・炎症と腫瘍性の鑑別は難しい場合が多々あり、そこへ切り込み普

段の悩みが解消される大変勉強になる内容であった。

形態カンファレンスは、実際の症例を提示し、講演の内容も踏まえて性状から考え細胞形態を画像で観察し診断へ結び付けていくプロセスを学ぶ内容とした。講演で基礎を学び実際の症例を観察することでより理解が深まった。穿刺液検査を実際行っていない施設もあり参考になる内容であったのではないだろうか。

今回は分野連携をテーマにしているが、実際は各施設の事情もあり連携がなかなかとれていないのが現状だと考えられる。双方のメリットを活かすことは臨床へ有益な情報を提供できることは確かである。この研修会を通して、参加者施設での分野を越えた連携のきっかけ、助けとなれば幸いである。また穿刺液検査は認定一般検査技師、認定骨髄検査技師の試験範囲にも含まれるが、東北では勉強会が少なく、認定試験にチャレンジする人たちにとって穿刺液検査の研修会は有用なものと考えている。実際、今回は他県からの参加もあり今後もこのような研修会を官臨技学術部として企画していきつつ、連携という面では他県との連携も築きながら、臨床検査分野を盛り上げていきたい。